



人的交流プロジェクトチーム発行

R7・5号

令和7年9月

小田原支援学校 支援連携部

題字:小田原支援学校 大井分教室生徒作品

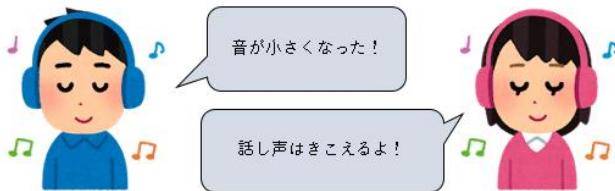
6月に行ったインクルーシブ授業を紹介します！！

足柄小学校では、インクルーシブ教育を推進するために「お互いの事を理解し認め合う」「おたすけグッズを通して自分や友達の事を知る」ことを目的としたインクルーシブ授業を1～6年生で行いました。今回は1・2年生で行った授業を紹介したいと思います！

インクルーシブ出張授業 ステップ①自分を知る・相手を知る・手段を知る

1年生

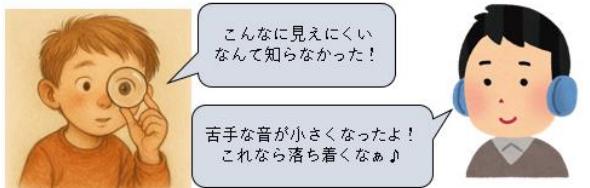
「おたすけグッズゲームランドへようこそ」



インクルーシブ出張授業 ステップ①自分を知る・相手を知る・手段を知る

2年生

「これって便利でしょ！？」
～メガネとイヤーマフについて～



【めあて】

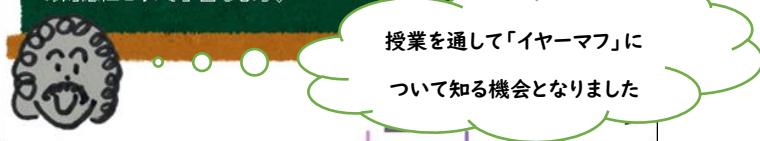
- ①それぞれの支援グッズに慣れ親しむことができる。
- ②支援グッズの正しい使い方を知ることができる。
- ③順番や約束を守って支援グッズを使うことができる。

【活動の流れ】

- ①支援グッズの正しい使い方を知る。
- ②音当てクイズ（イヤーマフを使って）
- ③5秒バランス（バランスクッションを使って）
- ④「もし、隣の友達が使っていたらどうしますか？」の問い合わせを考える。

◎はやと先生のこだわりポイント◎

☆支援グッズとの「出会い」の授業。まずは正しい使い方を「知る」ことが大切！！特にイヤーマフの名前や使い方は知らない子供も多いので丁寧に伝えます！
☆2つの支援グッズを使ったゲームを通して支援グッズに興味や関心がもてるようになります！実際にグッズを使った後には感想を聞いて、聞こえ方の違いやつけた感覚の違いなどを共有することで感じ方の違いにも着目できるようになります！
☆最後の「問い合わせ」を考えることで実際にされている友達がいた時の対応について学習します。



【めあて】

- ①目が不自由な人にとってメガネはとても便利なものだと知る。
- ②人によって嫌な音が違うことに気付くことができる。

【活動の流れ】

- ①ぼやけて見える疑似体験（視力0.1以下の動画・メガネのレンズ）
- ②様々な音を聞き比べていく。
- ③自分が嫌な音の時にイヤーマフを使ってみる。

◎はやと先生のこだわりポイント◎

☆身近なメガネを使った活動をすることで、便利さに気づくようにしました。
メガネの体験が終わった後に登場するイヤーマフが子供たちにとって身近なものになりました！
☆いろんな音（バイク音、蚊が飛び等）を聞き比べることで、自分や友達の苦手な音が違うことに気づくことができました！

